

第1回孫文・梅屋庄吉（東アジア・長崎近代交流史）常設展示整備構想策定委員会会議録（要旨）

開催日時	平成24年5月29日（火）午前10:30～11:54
開催場所	長崎歴史文化博物館講座室
出席委員	坂越委員長、池田副委員長、大堀委員、小坂委員、陳委員、姫野委員、脇田委員
職員出席	宮崎文化振興課長、土井口企画監、山口総括課長補佐、草野課長補佐、辻課長補佐、佐藤課長補佐、山本係長、海江田係長、園田係長、松本学芸員 このほか、ワーキングチームメンバー（県市関係課長）等14名出席
会の成立	委員9名 出席者7名（委員の過半数の出席で成立）
議題	（1）設置要綱について （2）委員長、副委員長選出について （3）常設展示あり方検討委員会からの提言書の報告 （4）協議項目について （5）スケジュール（案）について （6）設置場所等について （7）既存の施設の活用事例について
	<p>（1）設置要綱について 事務局（県文化振興課）より説明</p> <p>（2）委員長、副委員長選出について （委員）今回の委員会は、具体的な（常設展示の）設置について議論することになるので、委員長は行政の関係者が良い。委員長は、坂越局長、副委員長は、池田部長にお願いしてはどうか。</p> <p>（委員）異議なし。（委員長 坂越県文化観光物産局長、副委員長 池田長崎市文化観光部長）</p> <p>（3）常設展示あり方検討委員会からの提言書の報告 事務局（県文化振興課）より説明</p> <p>（4）協議項目について 事務局（文化振興課）より説明</p> <p>（5）スケジュール（案）について 事務局（文化振興課）より説明</p> <p>（委員）協議項目にある「施設の機能」については、どんなことを想定しているのか。</p> <p>（事務局）どういう性格の館か、体験型の施設などいろんな要素がある。どういう機能を持たせた施設にしていくべきか議論をしていただく。</p> <p>（委員）博物館の問題を考える時に、どういう機能、役割を持たせた博物館にするか、ここをしっかりとっていくことが重要である。展示検討委員会については、構想策定と具体的な展示検討の委員会となるが、どういう展示、あるいは常設展の展示をつくり、その運営をどうしていくのかということが課題だと思う。今回もこの構想策定委員会で、運営のことが話合われる訳だが、さらにそれを具体的に、もっと機能をしっかりしたものにしていくためには、展示及び運営をどうしていくかの検討がもっとも重要なことになる。</p> <p>（委員長）展示検討委員会と構想策定委員会の役割はどうなっているのか。運営方法については、構想策定委員会でも議論するのだろうが、どこまで議論するのか。どこからか、展示検討委員会の役割なのか。</p> <p>（事務局）運営というのは2つあって、大きな意味での運営というのは、誰が運営するのか。県が直営でや</p>

るのか、また指定管理を使ってやるのか検討する必要がある。また、物理的なハード面で展示毎の細かな運営方法を定める必要である。どういう機能を持たせるかによって、必然的に運営がどういったものかも決まっていき、個々の検討が必要になっていく。そういったものを含めた基本構想にする必要があると考えている。

(委員長) 展示検討委員会では、細部の運営方法についてもある程度議論するということが。大まかな部分は、構想策定委員会で「誰が運営するのか」といったことも議論するということが。

(事務局) 本委員会での議論を是非お願いしたい。

(委員) 構想策定委員会では、どういう運営の体制をやるのかという大きな観点での議論が必要だと思う。展示検討委員会では博物館の展示を含めた博物館全体の運営というものを、開館前に議論しておかないといけない。

(委員) 2回目以降に詳細に検討される事項であると思うが、「孫文・梅屋庄吉(東アジア・長崎近代交流史)常設展示あり方検討委員会」(以下「あり方検討委」)の提言を検討するときも、規模について絵空事を描いてもしょうがないという意見があった。具体的にになると、かなり絞り込まないといけないと思うが、規模はおおよそ、どれくらいということは考えているのか。それともこちらで提案して良いのか。

(事務局) 基本条件について、具体的な場所、立地条件とか、面積とかは示さないといけないと思うが、それは、次回お示しするとして、今回は、事務局から参考となる館を資料として準備しているので説明をしたい。

(委員) 展示だけのスペースを考えるとかなり狭くても、博物館の分館的なものとなるとそれなりに見えてくる。展示のスペースだけ考えるのかどうかで、ずいぶん考え方が違ってくると思う。もし、松が枝地区を対象に検討するとすれば、伝建地区であり、伝統的な建物の保存のしぼりと景観上のしぼり等がある。そのことについて十分整理していただき、複数のご提案をいただきたい。

(委員) 当面は大々的な施設ではなく、既存施設を活用し、段階的な対応ということであるが、将来的にはどういうことにするのか考えを聞きたいのが1点と、また、松が枝周辺にある程度絞られたいきさつも教えていただきたい。

(事務局) 1点目の段階的というのとは、当面、今ある材料で、展示をさせていただく。そして、研究とか展示とかの蓄積を踏まえて発展させていく必要があるという提言で理解している。また、中長期的なあり方も考える必要があると考えており、当面5年とか10年スパンをどうやっていくか、両面を踏まえたところでご了解をいただく形になると考えている。

(委員) 昨年の「あり方検討委」の経緯を申し上げますと、当面は小さく産んでいこう。ひょっとしたら誰も来ない可能性もあるので、その実績以前に将来大きくするという議論にはならない。あるいはどんどん人が来れば、中華街にもう少し近いところでもよいのではとの意見もあり、そこはフリーにしよう、あまり今のうちに縛りすぎるのはよくないという考え方であった。

(委員) 昨年の「あり方検討委」で議論した中で、市民の参加をどうするかというのがあって、例えば、市民の中でグループを作って、博物館のガイドをするなどいろんなやり方があると思う。そこも

想定しながらだと思うので、一応想定しながら人材育成をやるのか、あるいは施設が出来上がったからやるのかを少し頭に入れてもらえればと思う。

(事務局) 市民の巻き込み方について、提言をいただいているので、しっかり考えていく必要がある。ご指摘をいただきましたので事務的に調査を行い、委員会に諮りたい。

(7) 活用事例の報告について 事務局より説明

(委員) 歴史的なコンテキスト(背景)を活かすことがとても大切。210万人来たという長浜の話や小樽など見せ方がいいと思う。うまくロケーションがあって、展示があって、つながっているという形でしかけられるということが、とても大切なこと。居留地の中で作るという重みはすごくある。そのことに十分配慮する必要があるなと思った。

(委員) ここ長崎での孫文と梅屋庄吉の常設展示のあり方、運営のあり方によっては人を呼べる場になるのではないかという意味で、これは大変参考になる事例ではないかと思う。

(委員) 神戸には孫文記念館がある。ただ1つ欠点は、市の中心からかなり離れている。一方長崎は松が枝の近辺となれば、ほぼ市の中心に近いところであり、立地としては最高である。また、もう1つは今回の主旨は、孫文と梅屋庄吉の友情という、これは、拡大すれば日中友好になる。そういう歴史を鏡として、現代の日本と中国の友好の発展にどう寄与するかという大きなテーマがある。その場合に、さきほどから言われている市民参加など大事。もう1つは青少年の交流の場として、中国の青少年とここを起点にして行き来したり、ここで交流したりとか、そういう青少年の友好交流に力を入れることが、非常に意義があるのではないか。

(委員) 青少年交流等につなげていけるような目標を持てたら素晴らしい。孫文・梅屋で中国から注目されるとすれば、2015年11月、孫文と宋慶齡が結婚して100周年というのが来る。日本人にはどうでもいいことかもしれないが、中国にとっては歴史を感じるほど大きな出来事。そういったポイントが1点ある。

(委員) 設置の評価指標について、入館何人目標というのは、しない方がいい。施設は日中友好のシンボルとして意味がある。人が入ることよりも意味がある指標を考えないといけないので工夫をしてください。

(事務局) 事務局として、ご意見を承り、またお諮りしたい。絶対数の数だけだと、本当に評価されるのかなと思う。どういう方に来ていただいたか、上海航路を利用した修学旅行生の半分の人に来ていたとか。あるいは中国のVIPの方が来たら必ず寄ってもらう施設だったとかという評価もあると思う。

(委員) 先に話がでたように外部評価委員会を作って、この1年間の評価をいろんな角度から提言、評価を出してもらうような総合的な指摘をしてもらうこともいい。

(委員長) 本日はいただいた議論とこれまでのあり方検討委員会の議論と提言書の内容を踏まえて、ワーキングチームで詳細を詰めて、第2回に案を提示していただけるものと思うので、それをたたき台に、第2回で皆さんに突っ込んだ議論をしていただければと思う。

以上